

新キャンパスだより

新キャンパスへの統合移転も工学部（昭和57年）、生物生産学部（昭和63年）、教育学部（平成元年）に続き、今年夏には理学部が移転する予定です。

今後、附属図書館、総合科学部、文学部、学校教育学部、法学部及び経済学部と順次移転する予定で、平成7年の移転完了をめざしてキャンパスの整備が行われ、併せて、キャンパス周辺の整備も行われています。

下見中郷線への信号機の設置について

国際交流会館の下の交差点（下見中郷線）は交通事故の多発地点であり、従来より関係機関へ要望中のところ、東広島市及び西条警察署の尽力により、同地点に待望の信号機が設置されることになりました。

大学構内への郵便局設置について

本学の統合移転が順調に進みだし、併せて新キャンパス北側に面した下見地区の開発計画「下見学生街構想」との関連により、プー

ルバール沿いの北地区エネルギーセンター東側隣接地に『無集配特定郵便局』が設置されることになりました。（9月着工、2月オープン予定）

また、『郵便局 ATM（現金自動預入支払機）』についても、少しでも早く利用できるよう早期設置を要望していたところ、将来人数の多い総合科学部地区に移設することを条件として、図書館西条分館付近に仮設されることになりました。

県道馬木八本松線の改良工事について

総合科学部地区西側の県道馬木八本松線は、交通量が将来増加することが予想され、道路幅が狭くカーブが多いため、交通事故が起りやすく危険（特に総合科学部移転時は混雑する）であり、広島県等関係機関への道路の早期改良工事を要望中のところ、今年度から測量・設計等の作業に入り、近い将来改良工事が実施されることになりました。

▼写真は整備の進む新キャンパス（アカデミック地区）

